



医療DXプロフェッショナル

第9回 健診現場のDX化を実現するシステム

キッセイコムテック株式会社 公共・医療ソリューション事業部 石川 忍

はじめに

当社では、自社開発製品としてPACSを20年以上販売し、多くの医療機関および健診機関へ導入してきた。その中でも、人間ドック・施設健診・巡回健診といった健康診断業務におけるDX化は、まだまだ浸透しているとは言えない。撮影画像のデジタル保管やフィルムレス・モニタ診断については一定程度浸透しているものの、問診票や所見用紙などの紙運用は根強く残っているのが現状である。

健診における読影は、大量の画像をいかにスピーディーに参照し、かつ精度を保った所見をつけることができるかという点で、診療の場合と運用が大きく異なる。しかし、従来のPACSには診療向け/健診向けという区別はなく、どちらの業務にも同じ設定で利用されていることがほとんどである。また、放射線技師や結果処理担当などのスタッフ部門では、読影の依頼や所見結果の確認といった読影前後の処理に多大な労力を割いている。このように、健診の業務は複雑であり、施設ごとに確立された特殊な運用が多いため、DX化は相当に困難であった。

一方、健診のインプット情報として欠かせない受診者の問診情報も、所定の用紙に記載しOCRなどで健診システムに取り込む運用が長らく続けられている。そのため、健診機関側は事前準備や問診票取り込み後のデータチェック、受診者側は紙の問診票へ毎回回答を記載するという手間が発生し、大きな課題となってきた。

そこで当社は、まず健診読影に特化したシステムの開発に着手した。ベースコンセプトである「レポートシステム一体型のPACS」という特長を生かし、スムーズに連続読影を行える点は健診の読影で特に効果を発揮する。また、スタッフ側の課題も解決するため、読影の依頼や二重読影の統合などの前後処理も搭載し、健診の読影業務全体を支援する「PAXiS Screening (パクスィス スクリーニング)」を開発した。

これに加えて、健診受診者向けにクラウドで提供するWeb問診サービス「RAKUNiS (ラクニス)」をリリースした。受診者の入力負担を軽減する一方で、健診機関側の事前準備や当日の受付業務および健診終了後の円滑なデータ連携に大きく寄与できるシステムである。健診現場のゲームチェンジャーたりえる両システムについて、以下に紹介していく。

健診読影トータル支援システム PAXiS-Screening

1.課題と効果

PAXiS-Screeningを導入したことにより、健診機関側に大きな効果をもたらすことができた。具体的には従来の課題となっていた、

- ・大量画像を読影する医師の負担および施設スタッフ立会い人員の時間的拘束
 - ・複雑な業務の属人化
 - ・所見結果内容やダブルチェックにおける重み判定の目視確認
 - ・基幹システムへの転記による人為的ミス
 - ・全体としての結果票納期遅延
- といった点について、

◎医師の読影時間短縮（※紙所見使用時から半減）

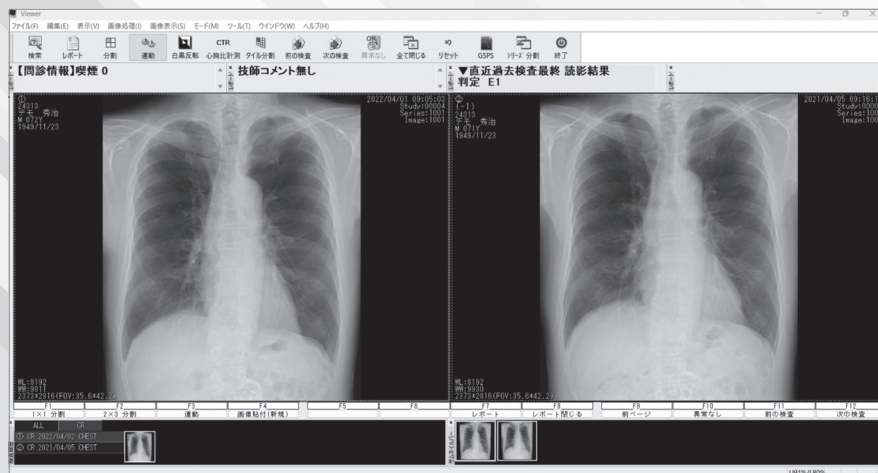


図1 ビューア画面